

好奇心と可能性を満たす場所

A place to satisfy
your curiosity and potential

三重大学 生物資源学部

生物資源学科

生物資源総合科学コース

農林環境科学コース

海洋生物資源学コース

生命化学コース

国立大学法人 三重大学
生物資源学部

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
TEL.059-231-9626 FAX.059-231-9634



<https://www.bio.mie-u.ac.jp>

BIORESOURCES GUIDEBOOK 2026



生物資源学部生物資源学科 コース構成



本学部の強み

山から海までの生物資源に関連する幅広い学問を学ぶことができます。

地球環境・生態・個体・細胞から分子まで学ぶことができます。

フィールドサイエンスセンターや練習船での実習などを通じて、広範な視野から学ぶことができます。



生物資源学研究科長
生物資源学部長

橋本 篤

ごあいさつ

三重大生物資源学部の前身は、1921年設置の三重高等農林学校であり、1987年に当時の農学部と水産学部の統合により発足し、現在では約70もの教育研究分野を有している独自性に富んだ学部として発展してきました。入学定員は260名で、農学系学部では東海・中部の国公立大学の中では最大規模を誇ります。また、農林水産学分野におけるほとんどの学問領域を網羅するとともに、実習の場である附属教育研究施設として紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（農場、演習林、水産実験所）と東海・北陸・近畿地方の国立大学の中では唯一の練習船（勢水丸）を有しています。さらに、本学部は単独で博士課程を設置しており、学部卒業後により専門性を高めたい学生は、そのまま博士前期課程、博士後期課程へと進み、修士・博士の学位を取得することが可能です。

このように、生物資源学部は「山の頂から海の底まで」という言葉通り、広大なフィールドを教育・研究の対象としています。農林水産業及びその関連産業、すなわち、食料、環境、健康、バイオに関わる産業の振興を担う人材の育成を目指しています。皆さんの知的好奇心を刺激し、将来の可能性を見いだすことができる学部です。私たちと共に次の一步を踏みだしてみましょう。

生物資源学部とは

生物資源は、山から海までの広範な地域で育まれ、

食料をはじめとして工業原料、エネルギーなど人類にとって

有用な財を提供します。その特長は、適切に利用すれば、

枯渇することなく、持続的に利用できることです。

また生物資源を生産するために良好に管理された環境は、

人類が生きていく上でも良好な環境を保つ役割も果たしています。

生物資源学部では、このような生物資源の生産と利用、

その生産を支える環境の維持に

貢献できる能力を身につけることを目指しています。

CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 2 生物資源学部生物資源学科 コース構成
- 3 農林環境科学コース
- 4 農林環境科学コース 研究内容紹介
- 5 海洋生物資源学コース
- 6 海洋生物資源学コース 研究内容紹介
- 7 生命化学コース
- 8 生命化学コース 研究内容紹介
- 9 附属教育研究施設
- 10 附属練習船 勢水丸
- 11 生物資源学部【沿革】・外部との協力体制
- 12 卒業生からのメッセージ
- 13 入学から卒業まで
- 15 入学試験
- 17 資格・免許 奨学金
- 18 アクセス

生物資源
総合科学
— 30名 —

農林環境
科学
— 110名 —

食料問題の解決や
豊かな環境維持の方策と
技術を身につけます。

海洋生物
資源学
— 45名 —

多様な視点から
海洋生物資源について
総合的に学びます。

生命化学
— 75名 —

生物の仕組みを
化学的に捉える
幅広い知識と
応用力を身につけます。

1年次

2年次

3・4年次

生物資源総合科学コースでは低学年次に、農林環境科学概論、海洋生物学、応用生命化学概論、フードシステムチュートリアル等の科目を学び、生物資源学の幅広い知識や俯瞰的視野、地域を先導する力に関する基礎的素養を身につけます。そして、志望分野を検討中の学生に最適な選択の可能性を提供します。

2年次に下記の3コースのいずれかへ配属。

基盤科目
(共通教育含む)

専門基礎科目

選択科目

卒業研究

農学専修

森林科学専修

農業工学専修

海洋生物資源学専修

生命機能化学専修

海洋生命化学専修

農林環境科学コース

農林環境科学コースでは、生命農学や社会科学の視点からフードシステムを理解し、食料問題の解決や豊かな環境を維持する方策と技術を学びます。また、森林生態系の自然環境や生物多様性を学び、地球温暖化の抑止や脱炭素社会を実現する資源の持続的な利用に必要な技術を習得します。さらに、農村空間や環境の保全修復、食料生産、資源循環、資源有効利用に関わる基礎理論を学び、それらのスマート化に必要な技術を身につけます。

2年次からは、農学専修、森林科学専修、農業工学専修（農業土木系・環境情報系）の3専修に分かれ、それぞれ特徴的な専門科目や研究手法について学びます。

学部必修

生物資源学総論、
フィールドサイエンスセンター体験演習
技術者倫理、卒業研究

学科選択必修（2科目4単位修得）

農林環境科学概論、海洋生物学、応用生命化学概論

コース選択必修

農学専修

育種学・作物学・園芸学・畜産学・植物病理学・昆虫学・生態学といった生命農学への理解を深めつつ、経営学・経済学等の社会科学の視点から俯瞰することにより、生産から消費者までをつなげる流れ、すなわちフードシステムとして農学を学びます。これにより、食料問題の解決や緑豊かな環境を維持し、生物資源を利活用する方策や、技術、システムの評価手法を学び応用することを通じて、地域社会から世界へ貢献することを目指します。

●植物学 ●食料・資源経済学
●農地工学 ●農場・演習林実習
●生理学 ●細胞生物学
●植物保護学 ●農業生物学実験
●農作物生育制御概論
●フィールドサイエンス農場実習Ⅰ
●植物遺伝育種学 ●作物学
●園芸学 ●動物生産学 ●植物病理学
●昆虫学 ●動物飼料学
●農業経営学 ●食農システム学
●農業化学実験
●フィールドサイエンス農場実習Ⅱ
●フィールドサイエンス農場実習Ⅲ
●農林統計学 ●農学科学英語
●資源動物学 ●農学演習Ⅰ
●農学演習Ⅱ ●農学演習Ⅲ

森林科学専修

森林は、世界の陸地の30%をおおい、陸上の生物現存量の90%にも達する巨大な生物群集です。地球環境の維持に加えて、生物多様性保全、国土保全、水源かん養などの機能を持ち、その恵みである木材は再生可能で、建築材料、木質材料、バイオマス資源として重要です。森林科学専修では、森林生態系の自然環境や生物多様性を学び、地球温暖化の抑止や脱炭素社会を実現する森林資源の持続的な利用に必要な技術を身につけます。

●植物学 ●食料・資源経済学
●農地工学 ●農場・演習林実習
●生理学 ●森林微生物機能学
●木質資源工学 ●FSC演習林実習Ⅰ
●農業経営学 ●森林・緑環境計画学
●森林利用・情報学 ●森林化学
●森林育成学 ●森林生物学実験
●森林化学実験
●FSC演習林実習Ⅱ ●農林統計学
●森林生態学 ●森林科学英語
●FSC演習林実習Ⅲ
●FSC演習林実習Ⅳ
●森林科学演習

農業工学専修

多様な生態系、地域社会、食料生産活動が共生する循環型社会の実現に向けて、農村空間や環境の保全修復、食料生産、資源循環、資源有効利用に関する先端技術の基礎理論を学びながら、それらをスマート化するために必要な技術を身に付けます。特に本専修のカリキュラムの特徴は、地域環境や生物生産現場を対象とした農村・農地・水資源の開発と保全、自然災害対応、システム開発、センシングを行う上で必要となる技術やスキルを実践的に身に付けるところにあります。

●植物学 ●食料・資源経済学
●農地工学 ●農場・演習林実習
●環境系数学 ●応用数学
●国際環境保全学(英語)
●応用力学Ⅰ ●農業経営学
●プログラミング ●応用力学Ⅱ
●数値計算法 ●基礎水理学
●農業情報ネットワーク
●実践データサイエンス
●農業工学現場実習
●フューチャーアース論

その他（選択・自由科目）

取得可能な資格※

●樹木医補 ●測量士補（農業工学専修） ●学芸員
●修習技術者（JABEE 農業土木プログラム）



主な研究内容

森林科学専修

- 森林の生態系保全と生物多様性に関する研究
- 森林資源の持続的な利用と管理に関する研究
- 木質資源の高度利用に関する研究

農学専修

- 農業に関する生物・社会科学的研究
- 動植物の栽培や生産に関わる分子生物学的研究
- 農業や環境に関する生態学的研究

農業工学専修

- 人工知能を搭載した農業ロボット・センサシステムの開発
- 持続的農業を目指した土壌水分や貯水池水位モニタリングによるデータ駆動型水管理システムの開発



【コース関連の研究室】

分子遺伝育種学
循環経営社会学
森林環境砂防学
エネルギー利用工学
土壌圏システム学

資源作物学
国際資源植物学
森林利用学
フードシステム学
土壌圏循環学

園芸植物機能学
国際資源利用学
木質資源工学
農村計画学
フューチャー・アース学

動物生産学
森林保全生態学
木質分子素材制御学
土資源工学
地球システム進化学

草地・飼料生産学
森林微生物学
応用環境情報学
水資源工学
環境解析学

植物医科学
森林総合環境学
生産環境システム学
農地工学

昆虫生態学
緑環境計画学
生物環境制御学
水利施設工学

※ホームページ等で必ず最新の情報をご確認ください

海洋生物資源学 コース



海洋生物資源学コースでは、プランクトンから魚介類・鯨類、藻類などにいたる多様な水生生物について、遺伝子レベルから生態系レベルまでの基礎を学ぶとともに、それらを増やし育てる技術、保全、資源としての持続的利用や流通のあり方を学びます。

また、海洋環境やそれに密接にかかわる気候変動・異常気象なども対象とし、海洋における生物と環境との関係を理解し、多様な視点から海洋生物資源について総合的に学びます。

学部必修

生物資源学総論、
フィールドサイエンスセンター体験演習、
技術者倫理、卒業研究

学科選択必修 (2科目4単位修得)

農林環境科学概論、海洋生物学、応用生命化学概論

コース選択必修

- 細胞生物学
- 生理学
- 大気海洋循環学
- 水産学総論
- 臨海実習
- 乗船実習
- 海洋観測航海実習
- 生物統計学
- 海洋生物比較生理学
- 増殖生態学
- 浮遊生物学
- 藻類学
- 魚類学
- 底生生物学
- 海生哺乳動物学
- 海洋個体群動態学

- 海事概論
- 水族発生物学
- 水産経済学
- 海洋生物資源学演習Ⅰ
- 卒論スタートアップ演習
- 海洋科学英語
- 海洋生物資源学演習Ⅱ
- その他(選択・自由科目)

取得可能な資格※
●学芸員

※ホームページ等で必ず最新の情報をご確認ください



主な研究内容

海洋生物資源学専修

- 環境や生物多様性に配慮した海洋生物の増養殖の研究
- 気候変動が海洋・海洋生態系・漁業に与える影響の研究
- 海洋の生態系保全と生物資源管理の研究
- 水産物の生産・流通・消費システムを通じた食糧産業のあり方の研究



【コース関連の研究室】

気象・気候 ダイナミクス	気象解析予測学	海洋気候学	未来海洋予測学	生物海洋学	藻類学	海洋生態学
鯨類学	海洋個体群動態学	水産応用情報学	応用行動学	水族生理学	水圏分子生態学	水圏資源生物学
魚類増殖学	浅海増殖学	先端養殖管理学	資源経済システム学			

生命化学コース

生命化学コースでは、多様な生物の代謝・物質・機能の解析を通して、生物の基礎的性質の化学的理解に必要な生命化学に関する幅広い知識と技術について学び、生物資源の持続的生産・利用・保全や人類の健康増進に貢献できる応用力を身につけます。

生命化学コースでは2年次前期までに基礎専門科目を学び、2年次後期から生命機能化学専修または海洋生命化学専修に分かれ、各専修に特徴的な専門科目や卒業研究に必要な研究手法の学理と技術について学びます。

学部必修

生物資源学総論、
フィールドサイエンスセンター体験演習、
技術者倫理、卒業研究

学科選択必修 (2科目4単位修得)

農林環境科学概論、海洋生物学、応用生命化学概論



コース選択必修

生命機能化学専修

地球上に生息する多様な生物（動物、植物、微生物など）に関する生理機能および生物が産生する有用物質の構造と機能に関する化学を中心に、食品・健康分野、医療・医薬品分野、環境・エネルギー分野および生物工学分野などに寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて総合的に学びます。3年次後期から10以上の専門分野に分かれて専門知識・技術を高め、4年次に指導教員のもとで独自の卒業研究に取り組みます。

- 有機化学Ⅰ
- 細胞生物学
- 生命化学概論
- 分子生物学
- 有機化学Ⅱ
- 生化学Ⅰ
- 微生物学
- 物理化学
- 生物物理化学
- 生化学Ⅱ
- 分析化学
- 食品化学
- 創薬化学
- 生物化学工学
- 生命機能化学実験Ⅰ
- バイオインフォマティクス
- 微生物遺伝学
- 栄養化学
- 発酵生理学
- 生命機能化学実験Ⅱ
- 生命機能化学概論
- 生命化学英語
- 生物機能化学
- 生命機能化学演習Ⅰ
- 生命機能化学演習Ⅱ

海洋生命化学専修

多様な海洋生物（魚介類、藻類、海洋微生物など）の生命機能の基礎的性質を化学的に明らかにし、医薬品・食品・化粧品などの原料となる海洋生物資源の有効利用、持続的安定生産、遺伝的多様性の保全に寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて総合的に学びます。3年次後期から8つの専門分野に分かれて専門知識・技術を高め、4年次に指導教員のもとで独自の卒業研究に取り組みます。

- 有機化学Ⅰ
- 細胞生物学
- 生命化学概論
- 分子生物学
- 有機化学Ⅱ
- 生化学Ⅰ
- 微生物学
- 生化学Ⅱ
- 分析化学
- 水圏生物化学
- 遺伝子工学
- 水産食品衛生学
- 微生物利用学
- 海洋生命化学実験Ⅰ
- 海洋生命化学実験Ⅱ
- バイオインフォマティクス
- 海洋資源微生物学
- 水産食品化学
- 生物物性学
- 海洋天然化学
- 脂質化学
- 海洋生命化学実験Ⅲ
- マリンフードプロセス実習、海洋生命化学実習
- 海洋生命化学概論
- 生命化学英語
- 海洋生命化学演習Ⅰ
- 海洋生命化学演習Ⅱ

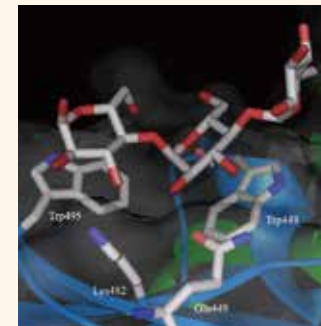


その他（選択・自由科目）

取得可能な資格※

- 食品衛生管理者
- 食品衛生監視員
- 学芸員

※ホームページ等で必ず最新の情報をご確認ください



主な研究内容



生命機能化学専修

- タンパク質の構造と機能に関する研究
- 最先端技術を駆使した次世代ゲノム研究
- 新薬の候補化合物を設計・合成する研究
- 食品や医療分野で利用可能な有用物質の探索
- 微生物の有用物質生産機構や代謝経路に関する研究



海洋生命化学専修

- 水生生物のゲノム情報を活用した産業的有用物の作出に関する研究
- 海洋生物が持つ天然化合物の探索とその機能に関する研究
- 海洋環境からの有用微生物の探索とその高度利用に関する研究
- 海洋生物の遺伝子やタンパク質などの生体高分子の情報、構造および機能に関する研究
- 洗浄・殺菌による食品微生物の制御に関する研究



【コース関連の研究室】

分子細胞生物学	分子生物情報学	生理活性化学	創薬化学	生物機能化学	食品生物情報工学	食品化学
微生物遺伝学	栄養化学	食品発酵学	土壌圏生物機能学	海洋生物化学	水圏生物利用学	水圏材料分子化学
生物物性学	生体高分子化学	海洋微生物学	水圏生物工学	海洋食糧化学		

充実したフィールド学習

関連する 教育研究施設

生物資源学部には、農場、演習林、水産実験所からなる附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（FSC）や勢水丸といった特色ある附属教育研究施設があります。さらに、関連施設として全学の鯨類研究センターがあります。これらは、農林水産分野、環境など幅広い教育・研究の場として活用されています。

生物資源学部の学生は、これらの附属教育研究施設を訪問し、体験することができます。

専門教育課程では、各自の専門性に適した施設で、さらに充実したフィールド実習や研究を行います。

附属 紀伊・黒潮生命地域 FSC①

演習林



紀伊半島の代表的な自然植生を示した貴重な森林フィールドです。森林の機能や森林資源の有効利用に関する多面的な研究、森林資源の育成・利用・保全に関する実習を行っています。

附属 紀伊・黒潮生命地域 FSC③

水産実験所



附属 紀伊・黒潮生命地域 FSC②

農場



持続可能な農業生産を目指した実習教育・研究を実施しています。また、作物、施設園芸、果樹、農産加工、畜産に関する多種多様な実習を通じて農業全般を深く理解することができます。



鯨類研究センター

鯨類の繁殖、生態、保全に関する研究を水族館や野外に行うとともに、成果の啓発や、関連研究者間の交流、学生向けプログラム開発を行っています。

豊かな生態系を有する伊勢湾口部に位置しており、多様な海洋生物を対象とした実習や、資源生態・情報科学・バイオマス利用・海洋教育などの研究を進めています。



附属練習船 勢水丸



中部地区で国立大学法人が所有する唯一の水産・海洋系練習船です。学生たちにとっては、洋上で観測や採集作業を実践することで、講義で学んだ知識を理解する場となっています。加えて、高層気象観測なども行い、様々な教育航海や調査・研究航海を行っています。

文部科学省
「教育関係
共同利用拠点」
認定

黒潮流域圏における 生物資源と環境・ 食文化教育のための 共同利用拠点

生物資源学研究科附属練習船勢水丸は、中部地区の大学（国立大学法人）が所有している唯一の水産・海洋系練習船です。平成22年6月に文部科学省により「教育関係共同利用拠点」として認定され、練習船を保有しない大学等の学生にも航海実習の機会を広く提供し、様々な活動を行っています。

勢水丸拠点化の目的は「黒潮流域圏における生物資源と環境・食文化教育」の推進です。特に伊勢湾・熊野灘を中心とした海域での洋上実習と各地域の魚市場や海産物加工場の見学等を組み込んだ特徴的な実習を体験し、黒潮流域圏に位置する三重の海洋環境ならびに気候風土と地方食文化を学ぶ機会を得ることができます。

さらに、講演会やシンポジウムを開催しており、拠点の取り組みや共同利用実習航海の成果を学内だけでなく一般に向けて紹介するとともに、学習の機会を提供しています。



勢水丸の概要	国 際 ト ン 数	491 トン
長 さ (全 長) / 50.90m	資格および航行区域 / JG、国際航海・A3 水域	
幅 (型) / 8.60m	常用 航海 速 力 /	約 10 ノット
深 さ (型) / 3.75m	定 員 (合 計) /	44 人
総 ト ン 数 / 318 トン	推 進 電 動 機 /	1,000kW×1 台

大正 10 (1921)	三重高等農林学校設置
昭和 24 (1949)	三重大学農学部（農学科、農業土木学科、林学科、農産製造学科）設置 附属施設として農学部附属農場および演習林を設置（前身学校は、三重農林専門学校）
昭和 47 (1972)	三重県立大学から水産学部を移管し、水産学部を設置
昭和 62 (1987)	生物資源学部（生物資源学科）設置（農学部、水産学部を統合改組） 生物資源学部附属農場、同附属演習林、同附属水産実験所、同附属練習船勢水丸設置
平成 3 (1991)	大学院生物資源学研究科博士課程設置
平成 12 (2000)	生物資源学部資源循環学科、共生環境学科 生物圏生命科学科設置（生物資源学科を改組）
平成 14 (2002)	生物資源学部附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター設置 （生物資源学部附属農場、同附属演習林、同附属水産実験所を改組）
平成 18 (2006)	大学院大学化にともない、大学院生物資源学研究科に改組
平成 29 (2017)	生物資源学部生物圏生命化学科・海洋生物資源学科設置（生物圏生命科学科を廃止）
令和 3 (2021)	創立100周年

外部との協力体制

産学官連携

生物資源学部（大学院生物資源学研究科）と鳥羽市は、地域の水産業等の活性化や学生の教育、地域人材育成に向けた連携強化を目指し、「鳥羽海洋教育研究センター」設置に関する覚書を締結しています。

また、生物資源学部（大学院生物資源学研究科）、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校、三重県水産研究所、鳥羽市、KDDI株式会社、株式会社KDDI総合研究所は、三重県内の5GやIoTなど先端技術を活用した水産業のデジタルトランスフォーメーション「海洋DX」の積極的な展開を目指し連携協定を結んでいます。



鳥羽市と「鳥羽海洋教育研究センター」設置に関する覚書を締結（令和3年5月）



5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定を締結（令和3年3月）

国際交流

現在、三重大学は110を超える数の世界中の大学や学部・研究科と交流協定を結んでおり、留学生の交換や研究・教育交流を盛んに行っています。これらの交流協定のもと、毎年たくさんの海外からの学生が生物資源学研究科／学部で留学し、農林水産業や環境に関する新しい技術や理論を学んでいます。

また、**英語で学べる科目が提供されており、グローバルな視点を持って地域社会で活躍できる専門知識や実践力を身につけることができます。**



海外協定校マレーシアトレンガヌ大学サマースクールでライセンス取得に挑戦（令和元年9月）

大学院生物資源学研究科はインドネシアにあるスリウィジャヤ大学（パレンバン市）とパジャジャラン大学（バンドン市）の両大学院との間でそれぞれ、総合的食料生産・管理計画学と持続的地域発展・保全学のダブルディグリー修士プログラムを実施しています。

最終試験に合格するとプログラム修了証書ならびに**三重大学とインドネシアの大学からの二つの修士の学位が同時に授与されます。**



三重大学からの学位を得たインドネシア両校の学生達（平成26年3月）

先輩からのメッセージ



今の仕事に役立っていること

稲作の一連の流れを経験したことで栽培過程や病害虫についての知識が付き、農家の方々とお話しする時に活きています。また、ゼミでは専門知識を身につけるだけでなく、先生による文章力の指導もあり、まだまだ未熟ですが仕事にも役立っていると感じます。計画を練って研究に取り組んだことも仕事において優先順位を立てるときに活かされていると感じます。

大学では高校時代とは異なり、興味のあることを主体的に学べる楽しさがあると思います。将来なりたいたいのものが定まっていなくても、少しでも興味のあることがあれば飛び込んでみてはいかがでしょうか。受験勉強は大変かと思いますが、充実した大学生活を想像して頑張ってください。

出身研究室【コース】

国際資源植物学研究室 農林環境科学コース

古戸 怜奈さん

愛知県経済農業協同組合連合会
生産資材部肥料農業課

大学での一番の思い出

稲の栽培をテーマとした卒論・修論の研究です。大学内に田んぼを作るところから始め、夏の暑い日の作業や植物体の分析など、研究室の人や友人に協力してもらいながら取り組みました。わからないことや慣れないことも多く、とにかく一生懸命でした。大変でしたが仲間との楽しい思い出もあり、何より自分なりにやり切れて良かったなと思います。

現在の仕事の内容

肥料の販売促進のための企画・開発を担っています。愛知県の土地柄に合い、かつ生産者が求める肥料を開発するよう努めています。肥料が効果を発揮できるか、実際に生産者の農地で使用させていただき、効能を検証する業務もあります。



今の仕事に役立っていること

研究では、地震時における農業用ダムの安定計算をしました。今は水路や頭首工の改修工事の設計にかかわっており、土木の知識が役に立っています。土木自体の内容もですが、それより難しい文献を読むことへの慣れ、人に伝えるプレゼンの仕方などを試行錯誤したことが、社会人になって繋がっていると感じます。

私は物理と生物が好きで、オープンキャンパスの時に「物理と生物やるならここだよ」と教授や生徒に刷り込まれここに入りました（結果、良かったです）。大した目標や将来の夢なんてなくてもいいし、将来のことなんて色々やってみてから考えればいいと思います。大学生は人生の夏休みなので、悔いの無いようバイトやサークルなど思いっきり遊んで、遊ぶために学んでください。

出身研究室【コース】

水利施設工学研究室（旧 環境施設工学研究室）

農林環境科学コース 山田 彩優加さん

農林水産省 東海農政局 矢作川総合第二期
農地防災事業所 調査設計課

大学での一番の思い出

学科のみんなで、キャンパス全体を使って逃走中ごっこをしたことです。ハンター役や、LINEで指令メールを設定したりしました。他にも運動会やBBQをしたり、男女仲の良い学年だったと思います。他には研究の一環として、北海道の厚真ダムの視察を教授と2人でした。

現在の仕事の内容

農林水産省 東海農政局で働いています。農業水利施設の設計、必要な予算を財務省に要求するほかに、YouTube への動画掲載や広報誌、インターンシップ対応、小学生への出前授業など、広報分野の仕事も行っています。YouTubeは農水省の公式チャンネルBUZZMAFFで配信しており、気になる方は「バイクだ山田」で検索してみてください。その他に、災害時の緊急対応も行っています。



今の仕事に役立っていること

「人に伝える」ことの大切さを専門的に学ぶことができたことです。学部の授業では英語を用いて学生同士で発表し合ったり、研究室では毎週ゼミを行い先生方や先輩たちに研究を発表しました。今では職場内の上司や先輩、お客様、学会発表など、公式な場でも正しく人に伝え、自分から積極的に発信することができるようになりました。

私が高校生の頃はただ哺乳類が好き、海が好きというだけで、明確に将来を決めていた訳ではありません。大学に入り、様々な勉強や研究に取り組むにつれて、やりたいことが出てきます。夢の選択肢を広げるといった意味でも今の努力は無駄にはならないはずです。ぜひ頑張ってください。

出身研究室【コース】

魚類増殖学研究室 海洋生物資源学コース

平松 春香さん

太地町立くじらの博物館

大学での一番の思い出

サークル活動です。三重大学は他の大学とは違い、1つのキャンパスに様々な学部の人達が集まっているので、自主的に行動すれば多くの人と関わるチャンスがあります。勉強や研究に行き詰まったときに私にとって心の支えとなり、サークルで養われた技術や知識はもちろん、出会った人との繋がりが思い出は一生の宝物となりました。

現在の仕事の内容

主にカマイルカ、スジイルカ、シワハイルカなど小型鯨類の飼育やショー運営を行っています。生き物相手だと上手くいかないことも多いですが、日々の成長を一番近くで感じられ、非常にやりがいがあります。また、鯨類の行動研究を専門に行動観察やデータ解析なども行っています。今でも大学時代にお世話になった先生方に助言して頂くことも多いです。

三重大学はとても素晴らしい場所です。受験戦争を勝ち抜けば、多くの出会い、楽しみ、学びを得られることでしょう。そして、将来やりたいこと、就きたい仕事を見つけることができます。くじけず受験勉強を乗り越えてください。きっと明るい未来が待っています！

出身研究室【コース】

水圏材料分子化学研究室 生命化学コース

藤田 信吾さん

株式会社 萩原農場生産研究所
技術開発部バイオチーム

大学での一番の思い出

研究室配属から卒論発表まで本当に濃い時間で、熱心に指導して下さった先生、苦楽をともにした仲間との研究室生活が一番の思い出です。

毎日が充実し、楽しんでいたことを鮮明に覚えています。夜遅くまで研究室に残って語り合ったことは良い思い出です。

現在の仕事の内容

スイカとメロンの品種改良をして種を販売する会社に勤めています。主な業務はスイカやメロンの品種や栽培方法、栽培環境、収穫時期の違いが成分含量に及ぼす影響を研究しています。加えて、スイカの加工食品を開発するために適切な品種の育成や栽培方法、加工方法などについても大学と共同で研究開発をしています。

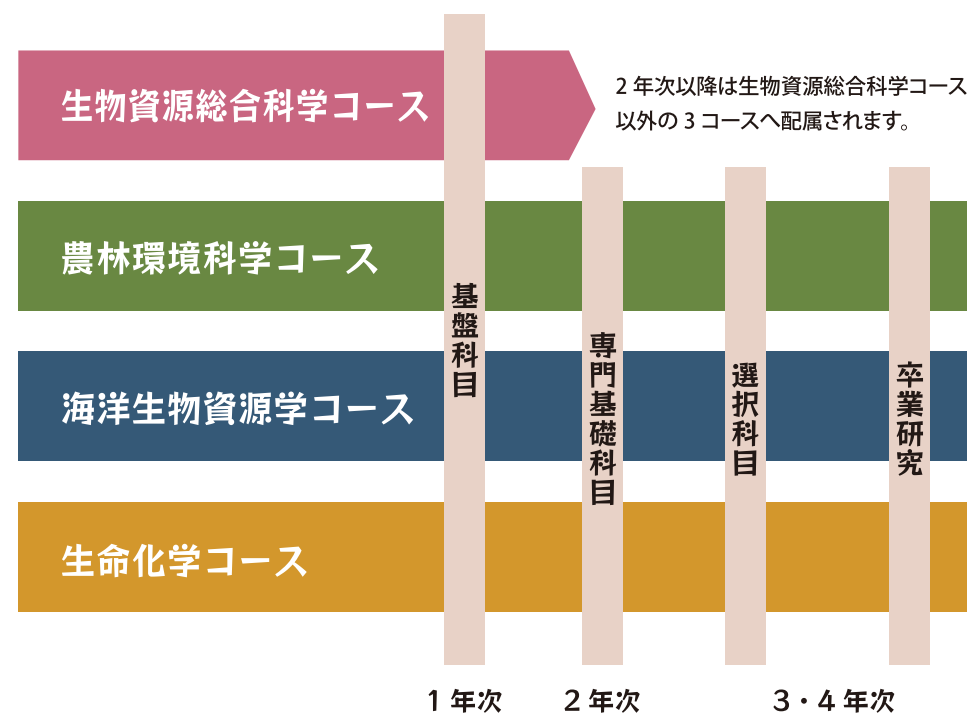
入学から卒業まで

生物資源学部を卒業する学生の 30 ～ 40%は、大学院（生物資源学研究科）に進学して、さらに研究を続けています。より専門的な知識を習得しながら問題点を探し、それを自分で解決するのは大学院でのひとつの醍醐味といえるでしょう。研究者を目指す人は、「博士号」を有していることが最近ではほぼ条件になっています。

自分が目指すものをよく考えて、そこへ到達するための手段や方法を一緒に考えていきましょう。

三重大学 生物資源学部

4年間(学士)



進学
or
就職

【進学】大学院 生物資源学研究科

博士前期課程

2年間(修士)

博士後期課程

3年間(博士)

資源循環学専攻

- 農業生物学講座
- 森林資源環境学講座
- 国際・地域資源学講座

資源循環学専攻

- 資源循環システム科学講座
- 国際資源循環科学講座

共生環境学専攻

- 地球環境学講座
- 環境情報システム工学講座
- 農業土木学講座

共生環境学専攻

- 気象・地球システム学講座
- 環境・生産科学講座

生物圏
生命科学専攻

- 生命機能化学講座
- 海洋生命分子化学講座
- 海洋生物学講座

生物圏
生命科学専攻

- 応用生命化学講座
- 海洋生物科学講座

国際交流

P.11 参照

連携大学院

- 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
- 国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所
- 太陽化学株式会社

【就職】三重大学では、キャリアセンター(キャリア支援チーム)が様々な就職支援活動を行っています。

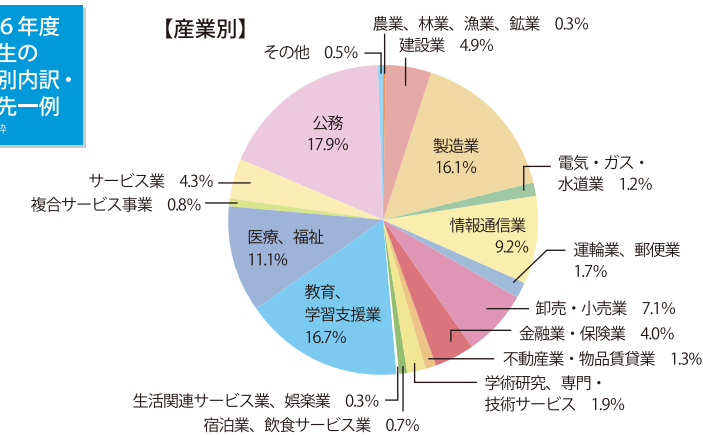
就職ガイダンス等

就職活動について、公務員業務説明会、自己分析・エントリーシート・面接対策、インターンシップ研修会など、就職志望者対象の各種ガイダンスを開催しています。また毎年、三重大学の卒業・修了予定者を対象とした学内企業研究会・説明会を開催しています。令和6年度は、11月30日・12月1日に対面で、186社の企業が参加して行われました。更に三重大学生協とタイアップした公務員講座も開講しています。

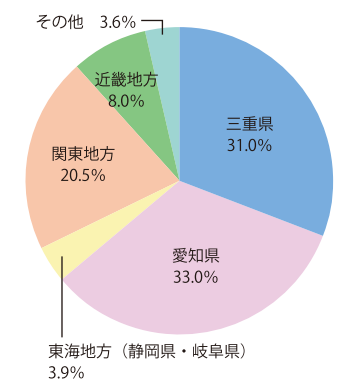
就職情報・相談コーナー

学生が自由に使えるパソコン及び資料を設置し、企業情報、公務員募集要項、インターンシップなどの情報を提供しています。また、「進路に迷っている」、「自分はどんな仕事に向いているのかわからない」、「エントリーシートの添削をして欲しい」といった学生の進路・就業相談に対して、キャリアカウンセラーが個別に応じます。

令和6年度
卒業生の
産業別内訳・
就職先一例
※一部抜粋



【就職先地域】



もっと詳しい

就職情報 <https://www.mie-u.ac.jp/life/career/>



三重大学入試情報ホームページ www.mie-u.ac.jp/exam/

以下の記載内容は令和7年案内作成月時点での情報です。より新しい情報は三重大学学務部入試チームまでお問合せください。

入学試験
の日程

前期日程

令和8年
2/25水

後期日程

令和8年
3/12木

学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱ

令和7年
11/22土

帰国生徒・社会人

令和8年
1/23金

令和8年度入学者選抜における大学入学共通テストの教科・科目等の利用方法について

	コース名	入学志願者に解答させる教科・科目名	個別学力検査等の概要
前期	生物資源総合科学	国 「地総・地探」・「歴総・日探」・「歴総・世探」 「地総／歴総／公」・「公・倫」・「公・政経」 から1 「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B・数C」 「物」・「化」・「生」・「地」 から2 「英」・「独」・「仏」・「中」・「韓」 から1 情 [6教科8科目]	数 (「数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C」 又は 「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」) 理 (「物基・物」・「化基・化」・「生基・生」) から1
	農林環境科学		
	海洋生物資源学		
	生命化学		
後期	農林環境科学	国 「地総・地探」・「歴総・日探」・「歴総・世探」 「地総／歴総／公」・「公・倫」・「公・政経」 から1 「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B・数C」 「物」・「化」・「生」・「地」 から2 英 情 [6教科8科目]	ペーパーインタビュー (主体性、多様性、協働性を多面的・ 総合的に評価する記述試験を 行います。)
	海洋生物資源学		
	生命化学		
推薦Ⅰ (専門高校対象)	農林環境科学	大学入学共通テストは課しません。	小論文と面接(出願書類を含む)の 結果を総合して選抜します。
	海洋生物資源学		
	生命化学		
推薦Ⅱ (普通科・理数科等対象)	生物資源総合科学	国 「地総・地探」・「歴総・日探」・「歴総・世探」 「地総／歴総／公」・「公・倫」・「公・政経」 から1 「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B・数C」 「物」・「化」・「生」・「地」 から2 英 情 [6教科8科目]	大学入学共通テストと 面接(出願書類を含む)の 結果を総合して選抜します。
	農林環境科学		
	海洋生物資源学		
	生命化学		

※大学入学共通テスト『英語』は「リーディング」・「リスニング」の受験が必須となります。

募集定員							
コース名	一般選抜		特別選抜				合 計
	前期日程	後期日程	学校推薦型選抜		帰国生徒	社会人	
			推薦Ⅰ	推薦Ⅱ			
生物資源総合科学コース	15	－	－	15	－	－	30
農 林 環 境 科 学 コ ー ス	53	28	7	18	2	2	110
海 洋 生 物 資 源 学 コ ー ス	25	10	2	6	1	1	45
生 命 化 学 コ ー ス	41	10	2	20	1	1	75
計	134	48	11	59	4	4	260

※推薦Ⅰ：大学入学共通テストを課さない（専門高校対象）。 ※推薦Ⅱ：大学入学共通テストを課す（普通科・理数科等 対象）。
※生物資源総合科学コースの学校推薦型選抜における募集人員は、紀伊黒潮枠 15 名とします。

令和8年度 大学入学共通テスト・個別学力検査配点

	コース名	試験の区分 (各コース共通)	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	情報	ペーパー インタビュー	面接	合計
一般選抜 (前期)	生物資源総合科学 農林環境科学 海洋生物資源学 生命化学	共通テスト	100	100	300	300	400	50	—	—	1,250
		個別学力検査	—	—	250	250	—	—	—	—	500
		合計	100	100	550	550	400	50	—	—	1,750
一般選抜 (後期)	農林環境科学 海洋生物資源学 生命化学	共通テスト	100	50	200	200	200	50	—	—	800
		個別学力検査	—	—	—	—	—	—	100	—	100
		合計	100	50	200	200	200	50	100	—	900
推薦Ⅱ	生物資源総合科学 農林環境科学 海洋生物資源学 生命化学	共通テスト	50	50	200	200	200	50	—	—	750
		面接	—	—	—	—	—	—	—	300	300
		合計	50	50	200	200	200	50	—	300	1,050

「ペーパーインタビュー」について

一般選抜（後期）では、大学入学後の学修への関心・意欲等を総合的に判断するための試験として、ペーパーインタビューを導入しています。

詳細については、令和8年度入学者選抜要項（7月末発行）をご確認ください。

※ 入学者選抜要項は、三重大学 Web サイト「入試情報」からも確認できます。

